



## 記憶そう失って、どんなことなの

### すべてのことを忘れてしまうこと

わたしたちは、いろいろなことを記憶します。

記憶というのは、わたしたちが、見たり、聞いたり、体験したりしたことが、脳へ送られ、記憶（心に覚えていること）として、大脳皮質というところにためられたものです。

ところが、頭を強くぶついたりして、大脳に傷などがついたりすると、その記憶が失われて、すべてのことを忘れてしまうことがあります、それを記憶そう失といっています。

### 記憶には二つの種類がある

わたしたちは、毎日いろいろなことを経験して、いろいろなことを記憶として大脳皮質にためますが、その場所には限りがあるため、いつも整理して分類しているのです。

その一つが、短期記憶です。すぐに忘れてしまうか、数日間記憶され、大脳皮質の海馬というところにたくわえられますが、いつまでも取り出さずにいると、やがて忘れてしまいます。

月や年の単位で記憶するものを長期記憶といい、しょっちゅう使うものや、くり返し勉強したことなどは、ここに入ります。

これをためておくところはかなり広く、大脳皮質全体に広がっています。

（監修・保志 宏）

大脳の中の海馬のあるところ

